

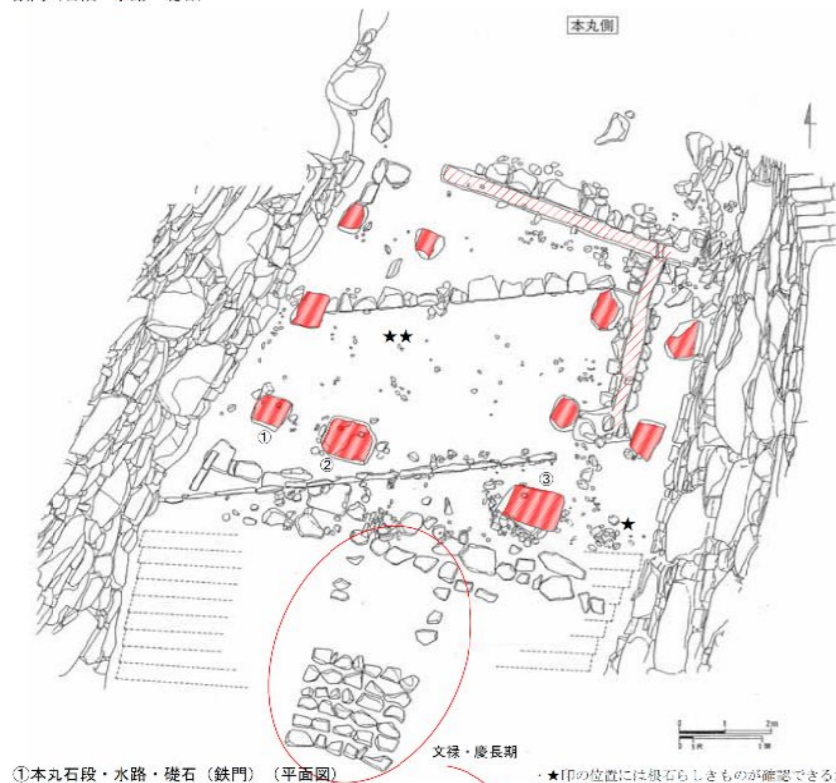
鉄門ニュース 3号

鉄門の姿や形は、発掘調査の成果で決定！

歴史的建造物を復元は、想像や解釈だけではできません。鉄門では絵図や古文書、古写真が大変役立ちましたが、何といたっても地面に残る礎石(そせき:柱の基礎石)や水路跡の発掘調査成果が最大の復元根拠です。

特に、両側の石垣に残る梁(はり:横方向の柱)の痕跡は建物の高さを知る重要な情報でした。

鉄門(石段・水路・礎石)



①本丸石段・水路・礎石(鉄門)(平面図)

文禄・慶長期

★印の位置には根石らしきものが確認できるため、礎石が欠失したものと考えられる。
★★は根石らしきものは見えず、ここに礎石が無くとも構造は成り立つ。また、遊りから通る時も柱が無い方が自然であると考えられる。



③本丸石段・水路・礎石(鉄門)(北より)



③本丸石段(鉄門)(北西より)

- ・遺構からは、一階部分の平面形式がわかる。中央間14.0尺、脇間6.0尺を測る。①
- ・南は石垣(文禄・慶長期)、北は雨落溝にて二階の軒の出がほぼわかる。②
- ・南方の幅8.0尺の階段は、文禄・慶長期。③
- ・礎石に残る軸摺穴より、門扉の筋は三間で西脇を臨戸とする。また、穴の大きさから扉の幅と厚みがわかる。④⑤⑥
- ・扉筋の両隣の石垣下より約10.5尺あたりの石垣の右に、幅7.5寸程、成1.1尺の欠き込みがある。⑧⑨
これは冠木の取り付け跡と考えられる。

[礎石 軸摺穴]

④



軸摺穴: 径110mm、深さ30mm

⑤



軸摺穴(右): 径140mm、深さ40mm
軸摺穴(左): 径110mm、深さ40mm

⑥



軸摺穴: 径138mm、深さ39mm

[石垣]

東側



西側



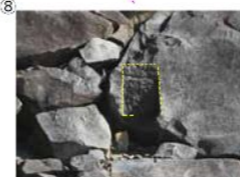
[石垣の欠込]

⑦



欠込と柱筋がずれている

⑧



礎柱と⑧の欠込の筋が横わ通っているため、石垣と礎石は同時期のものと推測される。

⑨

